

中学部 作業学習指導案（手工芸グループ）

1. 単元名 「バザーに出す製品を作ろう」

2. 指導についての考え方

（1）生徒の実態

手工芸グループは、1年生〇〇名、2年生〇名、3年生〇名の計〇〇名で構成されている。小学部でビーズ通しなどの経験のある生徒もおり、また作業内容を生徒の実態に合わせて選択することができるため、今年も〇年生の割合が大きくなっている。最低限の指示や支援で作業を行なうことができる生徒もいる一方、教師と一緒に作業に取り組む生徒もいるなど、作業に関する生徒の実態が様々である。年度当初、それぞれの実態に合わせた作業内容を選んで取り組んできた。できるだけ少ない支援で意欲的に取り組む姿をめざし、これまでに、見通しを持つ、興味を持って取り組む、集中して丁寧に取り組む、などの目標を持って取り組んできている。その中で製品作りを意識し始め、準備から片づけまで進んでする姿も見られるようになってきている。また、作業の技術の向上が見られる生徒や新たな作業内容に発展して取り組んでいる生徒もいる。

（2）単元設定の理由

本単元では、布、ビーズ、各種フェルト、刺繍、ステンシル、エコクラフトなどでの製品を仕上げることを一つの目標としている。手工芸グループでは、生徒の実態から3つの教室に分かれて作業しているが、これらの作業は、次の点でそれぞれの生徒の実態に合わせた個別の課題とするのに適している。

- ①様々な材料や手技を取り入れることで生徒の興味・関心や特性に合った作業にできる。
- ②工程が細分化でき、生徒の特性に合った作業を選択することができる。
- ③製作過程が分かりやすく、見通しを持って取り組める。

また、できあがった製品は、日常的に使用できるものであり、作る喜びや達成感を味わうことができる。さらに、作業活動を繰り返すことで、目と手の協応を促し、集中力や持続力をつけることができる。

（3）指導にあたって

○教材教具の工夫

- ・生徒の実態に応じた作業内容を用意し、活動ごとの目標を設定する。
- ・工程や補助具等の工夫をし、活用する。
- ・見通しを持って作業が進められるよう、シールカードを使用するなどの工夫をする。
- ・生徒が興味を示す製品を作ることにより、製品への関心を高める。

○場の工夫

- ・落ち着いて作業に取り組めるようなグループ分け、座席、道具等の配置をする。

○教師の関わりの工夫

- ・できるだけ少ない支援で作業に取り組み、必要に応じて教師も一緒に作業を行なう。

3. 単元目標

- ・集中して、持続的に作業に取り組むことができる。
- ・使用する材料や道具の適切な取り扱い方を身につけ、安全に使用することができる。
- ・バザーで売れる製品作りを意識し、より丁寧にきれいに仕上げることを心がけることができる。

4. 生徒の実態と、個別の目標

	A (〇年男)	B (〇年女)	C (〇年男)
個別の指導計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> 作業の手順に慣れ、集中して取り組むことができる。 手順を理解して、自分で作業に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業の内容や手順を理解し、積極的に取り組むことができる。 指示や助言を受け入れ、よりよい製品作りに励む。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習の流れがわかり、作業に必要な道具の準備や後片付けが一人で行える。 集中して作業に取り組む。 報告や困った時に助けを求められるようになる。 作業学習や校内実習を通して働くことの経験を持つ。

単元に関わる実態	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な手順は理解して取り組むことができるが、自分なりの方法でしてしまうことがある。 授業中に離席することがある。 することが分かっても自分から次の課題へ取り組めないことがある。 難しい課題などになると情緒が安定しないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 手先は器用で、印なしでもまっすぐに縫えるようになってきた。 手元を見て作業をすることがまだ充分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に対する意欲はあるが、離席が見られ、自ら次の指示を求めることがうまくできないことがある。 印に沿って糸を刺していくことができる。 模様刺しのデザインは読みとれないが、刺し間違いはわかる。
単元における目標	<ul style="list-style-type: none"> 一定時間集中して作業に取り組むことができる。 手順を理解して自分で作業を進めていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 縫い目を確認しながら作業を進めることができる。 指示を聞いて作業に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して作業に取り組む。 終了の報告後、次の指示が出るまで離席せずに待つ。 処理できなくなった時に助けを求める。
支援の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 図案をみて自分で並べられるよう補助具を用意する。 図案をビーズの大きさに拡大し、一本分ずつ切っておく。 図案の模様と対応して並べることができるよう、ビーズのケースに図案の模様を貼っておく。 一人で作業を進めていくことができるように、針、できあがった物入れ、次の補助具を棚の上に並べておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 縫いはじめは布をセットする。 直線の終わりを意識できるように声かけをする。 作業意欲が高まるように1枚仕上げるごとにシールを貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> 着席カードを机に提示する。 線で印付けをする。 印の分量は3ブロック前後とする。 目標が達成できた時に、シールで評価する。

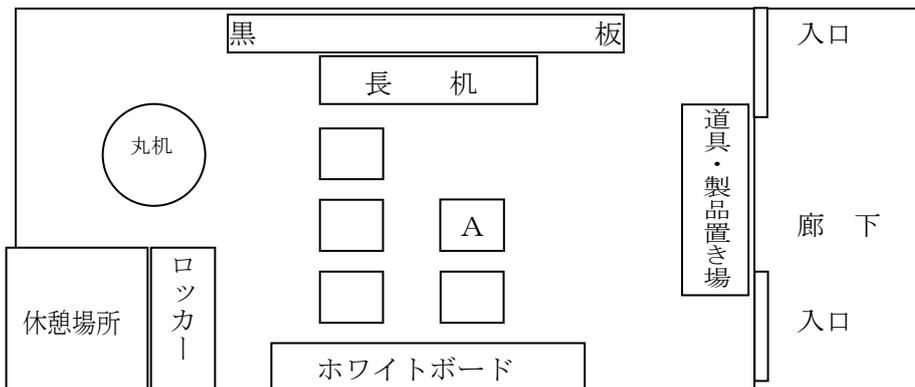
5. 指導計画・・・計92時間

- (1) ビーズ・刺繍等, いろいろな作業を経験しよう 30時間
- (2) バサーに出す製品を作ろう 58時間 (37/58)
- (3) バサーの準備をしよう 2時間
- (4) バサー 2時間

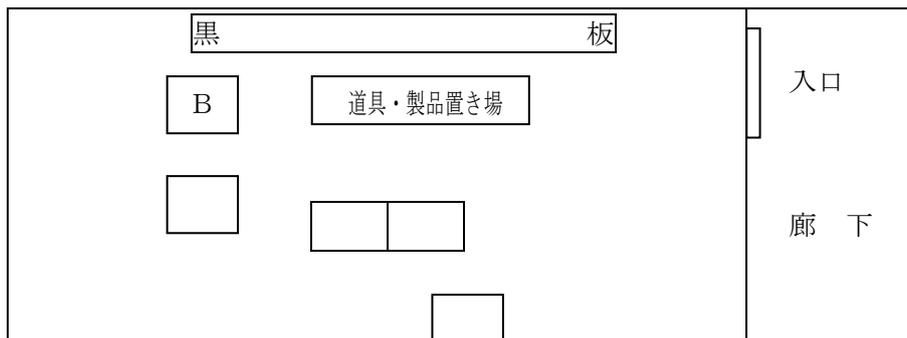
6. 本時について

(1) 教室環境

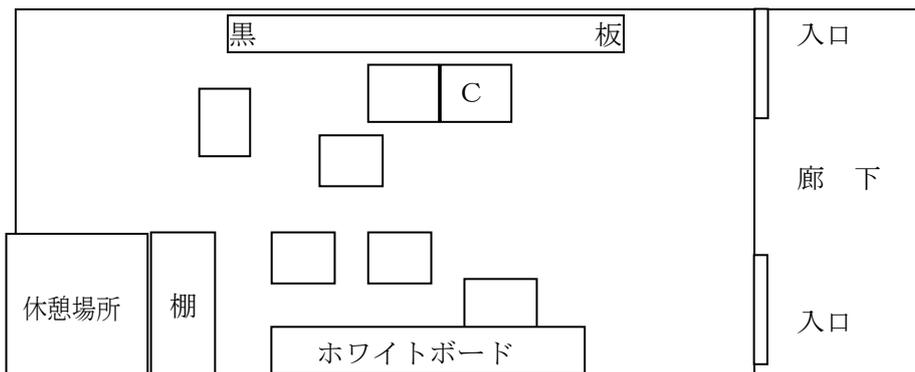
中学部〇年〇組教室 生徒〇名 教師〇名



中学部〇年〇組教室 生徒〇名 教師〇名



中学部〇年〇組教室 生徒〇名 教師〇名



(2) 準備

- 布・刺繍製作 : ミシン, ステンシルセット, 刺繍糸, 針
- ビーズ製作 : ビーズ, 糸, 針, 補助具, 拡大図

(3) 本時の目標

- 自分の作業活動を意識し, それぞれが「始め-活動-終わり」の一連の作業の見通しをもって取り組む。
- 集中して, 丁寧に作業活動に取り組む。

(4) 展開 A (〇年男)

学習内容・活動	A(〇年男) 本時の目標 (評価の観点)
<p>1. 準備をする。 ・机の移動 ・道具の用意</p> <p>2. はじめのあいさつをする。</p> <p>3. 先生の話聞く。 ・本時の作業内容の確認</p> <p>4. 作業をする。 ○スキルスクリーンを作る。 ①ビーズを並べる。</p> <p>②針を用意して通す。</p> <p>③報告する。</p> <p>④出来上がった物を補助具の上に貼り、かごの中に入れる。</p> <p>⑤次の板を用意する。 (前時の作業進度によって、最初の作業内容は異なる)</p> <p>5. 机の上を片づける。</p> <p>6. がんばったことを報告して、全体のがんばり表にシールを貼る。</p> <p>7. 先生の話聞く。</p> <p>8. おわりのあいさつをする。</p>	<p>○自分でビーズを並べることができる。 ○集中して、間違わずに一人で通すことができる。 ○1本通したら報告をすることができる。</p> <p style="text-align: center;">A (〇年男) についての支援の工夫</p> <p>○作業の始まりを意識できるように、場の設定、必要な道具の用意をできるだけ自分で行うようにする。</p> <p>○ビーズを自分で1本ずつ並べることができるように、補助具を用意する。補助具には、ビーズの大きさに拡大した図案を1本ずつ貼っておく。</p> <p>○図案の模様とビーズを対応して並べることができるようにビーズのケースに図案の模様を貼っておく。</p> <p>○自分で針に糸と止め玉を用意できるように、1セットずつ袋に入れて用意しておく。</p> <p>○「できました」と自分から報告できるように机上に「できました」という絵カードを貼っておく。</p> <p>○自分で作業を進めていくことができるように、棚の上に「できあがった物を入れるかご」「次の補助具」を用意しておく。</p> <p>○本時の作業を自分で振り返ることができるように「笑顔シール」「泣き顔シール」を選択して、がんばり表に貼るようになる。</p> <p>○本時を振り返って、先生からの賞賛の言葉を聞くことで、次時の作業へとつなげていく。</p>



C (〇年女)

学習内容・活動	C (〇年女) 本時の目標 (評価の観点)
	<p>○一定時間席を離れずに継続して作業に取り組むことができる。</p> <p>○終了の報告後、次の指示を求めることができる。</p>
	<p>C (〇年女) についての 支援の工夫</p>
<p>1. はじめのあいさつをする。</p> <p>2. 道具を準備する。 ○2階の倉庫へ個人のトレイを取りに行く。</p> <p>3. 本時の作業内容の確認をする。 ○スエーデン刺繍 ○模様刺し</p> <p>4. 作業をする。 ○刺繍糸の色を確認する。 ○布を広げる。 ○刺繍針に糸を通す。 ○チャコペンで印を付ける。 ○印に沿って刺していく。 ○本時でどのくらい刺繍できたか確認する。</p> <p>5. 道具を片づける。 ○2階までトレイを運ぶ。</p> <p>6. 作業ノートに記録する。</p> <p>7. 終わりのあいさつをする。</p>	<p>○着席カードを机に提示しておく。</p> <p>○階段の昇降時に道具を取りこぼさないように注意する。</p> <p>○糸の長さは布幅の2倍とる。</p> <p>○糸通しを使う。</p> <p>○印付けは、点だと段が変わるところで間違いやすいので、線で印を付ける。また、印が長すぎると持続できないので、3ブロック分ずつ付ける。</p> <p>○刺し間違えたり糸が絡まったりした時に報告できるように注意する。</p> <p>○印がつけられたところまで刺し終えた時に、「できました」と報告できるように絵カードを提示しておく。</p> <p>○トイレ休憩をとりたい時は、「トイレに行きます」と告げて教室を出るように注意する。絵カードは使用しない。トイレは、作業が始まる前に済ませておく。</p> <p>○集中して作業できたことをほめる。</p> <p>○日付、作業内容、作業量、作業中の様子などを生徒Cと振り返りながら教師が記入する。</p> <p>○着席カードと作業ノートを持って、教室を出る。</p>

